トリターマ

「トリ」は三、「ターマ」は多摩からの造語。三多摩地域への想いを込めて。

【編集】東京都公民館連絡協議会研修担当【発行】東京都公民館連絡協議会

狛江市中央公民館☎03-3488-4411　福生市公民館白梅分館☎042-553-3454

2019／10
第 33 号

総 会 報 告

東京都公民館連絡協議会会長
狛江市公民館長　安江　真人

平成 31 年度東京都公民館連絡協議会定期総会が４月 23 日（火）に福生市民会館公民館第４・５集会室で開催されました。

総会では、第１号議案「平成 30 年度東京都公民館連絡協議会事業報告」、第２号議案「平成 30 年度東京都公民館連絡協議会一般会計決算の認定について」、第３号議案「平成 30 年度東京都公民館連絡協議会特別会計決算の認定について」、第４号議案「財産に関する調書」、第５号議案「監査報告」、第６号議案「平成 31 年度東京都公民館連絡協議会役員会の承認について」がそれぞれ承認されました。

◆公民館が果たす役割

戦後、各地に建設された公民館は住民の学びや活動の場として、また地域課題に取り組むための拠点として、長年時代とともに様々な役割を果たしてまいりました。一方で社会教育を取り巻く環境は経済のグローバル化、少子高齢化による人口の減少により大きく変化し、地域コミュニティの衰退などにより、公民館制度開始当時の社会的課題とは大きく変容しています。このような中、住民相互の連携・協働による地域の活性化、地域や生活課題の解決に向けて、公民館が果たす役割の重要性がますます高まってきています。

社会教育の拠点であり、地域住民の交流の場、学びの場として、公民館は社会情勢を注視し、住民の様々なニーズを捉えながら本来の役割を果たしていくことが求められています。

こうした背景をもとに、都公連では昨年に引き続き平成 31 年度の運営方針として、

１　公民館における今日的な課題について、情報の交換・共有をする。

２　地域づくりにつながる公民館事業の実践や公民館の果たすべき役割を学ぶ機会を充実させる。

３　公民館関係者の研修・情報交換の場を設け、課題解決に向けた調査・研究を行う。

ことが総会で承認されました。

◆各部会と公民館研究大会の取組

運営方針に従って、今年度につきましても館長部会、委員部会、職員部会やその他研修活動を実施し、継続的に取り組んでまいります。

また、今年度で東京都公民館研究大会は、56 回目を迎えます。

昨年の第 55 回研究大会では、東大和市において「どうなる？どうする？社会教育～連携・協働・参加の成果を発信しよう～」を全体テーマとして、活発な議論がなされました。

今年度の研究大会では、テーマを「公民館の役割　再発見～新たな広がりをめざして～」とし、来年２月１日（土）の開催に向けて、研究大会事務局市の昭島市公民館の皆様を中心に準備が進められており、課題別集会担当市の東大和市と狛江市のほか、委員部会、職員部会が昨年度に引き続き、それぞれに課題別集会を担当します。４つの分科会すべてにおいて課題解決に向けた活発な議論が図られ、公民館の英知を結び、また人と人とを結ぶ実りあるものになることを期待しています。

研究大会には多くの皆様がご参加いただけますよう、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

関ブロ大会に参加して

都公連顧問　伊東静一

◇全体会

8 月 22 日～23 日、第 41 回全国公民館研究集会・第 59 回関東甲信越静公民館研究大会（関ブロ大会）栃木大会が宇都宮市で開催されましたので、概要を報告いたします。

今大会のテーマは、「公民館から発信する地域づくり～地域課題解決を通した地域コミュニティの活性化を目指して～」を掲げ、600 人を超える参加で開催されました。

1 日目は、正午から開会行事としてオープニングアトラクションがあり、さくら市公民館アイドル養成講座から生まれたご当地アイドルによる歌とダンスで、若い女性による舞台上でのパフォーマンスでした。今までの関ブロ大会では経験したことのない取組でしたので、困惑している参加者の様子も感じましたが、舞台上のアイドルたちも、日頃目にしない高齢者の前での取組に戸惑っていたのではないでしょうか。

次には例年通り、開会行事として主催者の挨拶と来賓からの祝辞のあと、全公連の表彰がありました。

◆文科省からの施策説明

次には文科省の寺門氏から約 30 分にわたり施策説明がありました。昨年 12 月 21 日に中央教育審議会が文科大臣に答申した「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の説明が主でした。特に、新たな社会教育の方向性として「住民の主体的な参加のためのきっかけづくり」「ネットワーク型行政の実質化」「地域の学びと活動を活性化する人材の活躍」といったことを説明し、その後具体的な事例について紹介・説明されました。その事例の中には、国立市公民館の障害者青年学級の取組も紹介されていました。

次に地域と学校の連携・協働の推進について、コミュニティスクール中心の説明がありました。特に、地域と学校との連携・協働についての効果などを説明されました。

さらに、今後の社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた事例が報告され、その中の説明では今後さらに社会教育主事と社会教育士の活躍できる場を用意するとのことでした。

その後休憩をはさみ、基調講演（野島正也氏：文教大学学園理事長、テーマ：地域課題解決学習から地域創生へ）と、事例報告（河内ひとみ氏：広島県大竹市玖波公民館主事、テーマ：地域コミュニティの形成を目指したこう活動　ひとが変わりまちが変わる「学びのカフェ物語」）がされました。

◆基調講演

基調講演としては、人口減少・少子高齢化社会を反映し、地域での夏祭りや小学校での運動会などが、地域単位として寂れているのではないか。その背景には個として楽しむという流れが強まっているとの現状分析で、公民館での学びは、自己有用感は生き甲斐の源泉で当事者意識を醸成し地域の縁（社会的なネットワーク）の再構築をすることであるとのことです。そして今後の公民館の課題は温かさのある公民館で、決め手は職員のリコグニション（recognition=認識、承認）とのことでした。そして地域創生に向けては、人と人とのつながりを、公民館事業を通して地域で作る担い手になることが重要とのことでした。

◆事例報告

事例報告が画像（静止画と動画）を通して取組が紹介されました。一人勤務の公民館職員が、「学びのカフェ」という取組で地域の住民のネットワークづくりに尽力し、その結果、寂れていた公民館に多くの地域住民が集い、利用する、新たな人間関係が生まれているという報告でした。

特筆すべきは、一人の職員、中学生の参加、中学校との関係づくり、今までの枠組みにとらわれない事業実施、情報の積極的発信というキーワードでしょうか。

過去から現在においても、上記のキーワードに該当する事業は多々紹介されていたのではないかと思いますが、今回の事例紹介では、徹底的に地元にいまある物をもとに、無い物ねだりではない、新たな想像と創造の取組を、一人の職員が、予算がない中で地域住民とのネットワークづくりから様々な事業を展開していることです。一人でも、ここまでやれるんだという印象を持った方が多かったと感じました。

◆トークセッション

基調講演の野島氏と事例報告者の河内氏によるトークセッションでは、野島氏が学びのカフェのテーマ設定の仕方は？予算は？グッズ製作のイラストなどは誰が？といったことを質問しました。

河内氏からは、以前は民間企業で働いていたが、職員になってから２年間は玖波のまち中を歩きまわり、地域の人との信頼関係を築いてきた。そして、地域課題として道路整備やごみ処理などは問題であって、地域課題としては「人と人との関係づくり」とのことでした。

野島氏からは、河内氏は人と人とをつなげるコーディネート力、現場での状況を参加者に説明し理解を促進させるファシリテート力が大きいとのことでした。

◆閉会行事

閉会行事として、大会アピールが下記のように報告されました。

①誰もがちょっと立ち寄ってみたくなる、魅力ある公民館
②自己向上の願いがかなう、学びを大切にする公民館
③人づくり・地域づくりに貢献する、リーダーが育つ公民館
④人の温かさと心配りがにじみ、地域の絆を紡ぐ公民館

次に、次期開催県である千葉県に大会旗が引き継がれ閉会となりました。

◇情報交換会（レセプション＝個人で費用負担の自由参加）について

１日目の大会行事が終了後、毎年恒例として宿泊するホテルなどを会場として懇親会が開催されます。今回も都公連の会長である狛江市安江館長と職員の苅田さんはじ

め、小金井市、国分寺市の職員や公運審委員の方も参加されていまして、多くの自治体職員はじめ関係者と様々な話題で盛り上がりました。

私が座ったテーブルは栃木県の方が多かったのですが、地元の食べ物から公民館事業、そして生涯学習全般に及ぶ悩みや楽しみといった、現場の声を直接語り合うことができました。雑誌などで掲載されている事例内容を読むということも大事な情報収集ですが、何より直接語り合うなかで得るものも、さらに大きいと感じました。

なお、宇都宮というと「餃子」「イチゴ＝トチオトメ」というイメージが強いかとは思います。交流会会場でも有名餃子店のシェフが餃子を焼きながら提供していただき、おいしかったですね。それと、ジャズバンドによる生演奏の中での交流は、年配の参加者が多い中では良かったですね。

◇分科会報告

２日目には、午前９時から正午まで、９つの分科会が宇都宮共和大学と宇都宮市中央生涯学習センターで開催されました。

私は、都公連が担当した分科会でもある第９分科会：地域課題２（諸問題）に参加しました。

助言者は荒井文昭氏（首都大学東京教授）で、事例報告は、元国立市公民館長の荒井敏行氏による「東京都国立市における社会教育施設の連携について」と、栃木県足利市矢場川公民館主事の久保島遼太氏による「子どもを核にした地域づくり～『やばっこ』が考えるナット（納豆）ワークの大切さ～」の２つでした。

◆事例報告１　東京都国立市における社会教育施設の連携について

まず、元国立市公民館長として他の社会教育施設との連携について説明しました。

荒井さんは、2011 年に定年退職し、郷土資料館を管理運営する財団に５年間勤務した経験から、自治体職員としての学びを次のように紹介した。

１　自治体職員として、現状の把握と将来像を把握
２　教育機関職員の現場主義を大切にし
３　住民の学びの自由を追求することが公民館の役割

地方自治体の三権分立は、議会と行政、そして司法＝住民の監視力と考えられる。社会教育職員が手をつながないとまずいのではないかと感じていた。

アメリカでは AML 連携＝文書館、博物館、図書館の連携が一般的であるが、日本では、図書館と公民館でさえ情報が繋がっていない。現在では、様々な情報や内容がウェブ上にないと検索にかからないということである。

郷土資料館には、貴重な資料がたくさんあったが、指定管理になっていたので、施設館の情報の一本化は難しかった。しかし、博物館を所管していた生涯学習課を中心に、持っている資料を一本化しようという取組を始めた。

住民が力を持つことは、住民が情報を持つことであることに気がついた。それは 1970 年代の公害反対闘争、1980 年代の情報公開制度である。

現在、国立市では、公民館、図書館、博物館の情報は公開されている。現在は、JR 国立駅の改修に伴い、旧駅舎の保全や利用について、郷土資料館、図書館、公民館で共同の取組を行っている。

□助言者からのコメント

１　それぞれの自治体や地域の歴史を考えることが重要

国立市の住民は、新住民と旧住民で調整懇話会という仕組みを作り、住民合意で国立（くにたち）という自治体の名前を生み出した経緯や、文教地区指定を住民の取組によって作り出したまちでもある。

２　知る権利や学ぶ権利を実現させるために社会教育機関が連携して取り組む重要さ

知る権利や学ぶ権利は、首長部局との間では慎重に行う必要があるが、国立市の事

例は、教育委員会内での取組を行ったことは、意味は大きい。

３　社会教育職員は自治体職員

「公務員として市民の目線で自治体の将来像を描く」「市民に近い場にある社会教育職員として現場主義を大切にし企画立案に生かす」「住民が自治能力を高める」３つのことが、地方自治を実現＝社会教育は学びを基礎に、住民の知る権利や学ぶ権利を実現、本当に住民が知りたいという時に、支える職員がいなくなってしまう、というコメントがされました。

◆事例報告2　栃木県足利市矢場川公民館による「子どもを核にした地域づくり～『やばっこ』が考えるナット（納豆）ワークの大切さ～」

説明は、パワーポイントを利用して説明をしました。最初は足利学校や市内の観光地などの紹介をし、足利市全体の様子を紹介しました。

次に、矢場川公民館の概要ですが、足利全体では17カ所にある公民館の一つで、矢場川公民館のある矢場川地区は、足利市の南西部、群馬県（太田市）との県境に位置し、人口約4,800人、世帯数約1,700戸、７つの自治会からなっている。

矢場川公民館は平成２年に設置され、郷土愛にあふれ、子どもの教育や見守りに熱意のある矢場川地区において、公民館を中心に、小学校と地域住民とが一体となった特色ある事業が行われている。

■地域ふれあい講座「やばっこ学びの巣」について

矢場川小学校児童を対象に開催し、周辺環境を活用した様々な趣向をこらした体験活動をとおして、子どもたちが楽しいと感じるだけでなく、指導する大人たちもが学び合える機会となっている。

〇やばっこの活動

やばっこの活動は子どもと一緒に大人も楽しむものであるため、子どもにとっても大人にとっても居場所づくりになる、という主旨のもと、〝子どもと大人のナット（納豆）ワーク作り〟（ネットより粘っこく、簡単に切れることはない）をモットーに活動に取り組んでいる。

〇やばっこスタッフ

学校週５日制の完全実施をきっかけに2002年、矢場川公民館のボランティアグループとして発足した。スタッフは、義務ではなく自らの意思で集まった多彩な顔ぶれで構成されている。PTA や元自治会長、育成会役員経験者、会社の幹部など肩書を気にすることなく、子どもたちと全力で活動に取り組んでいる。

〇特色ある活動

年間を通じて、公民館や「やばっこ広場」をフィールドに、農業体験や周辺環境を活用したもの作りを実施。また、やばっこスタッフ自身が子どもの頃に遊んだ竹馬や竹とんぼ、笹船作りなどを行うことによって、伝統を引き継ぎ、自分たちも昔を思い出して子ども達とめいっぱい楽しむ活動を行っている。

〇「やばっこ広場」とは

地元農家に提供いただいた休耕田を「やばっこ広場」と名付け、年間を通して農作物の栽培・収穫を軸に、多彩な活動を繰り広げている。

〇成果と今後の展望

「やばっこ」を通じて、子どもたちと地域の大人たちとの繋がりが増えている。当初の目的である地域住民の居場所づくりができている。今後は、若い大人たちの積極的な参加で伝統を繋ぎ、やばっこの活動を続けていくことが課題。

◆参加者からの質問

Q：小平市　スタッフの数は？父兄は？
やばっこスタッフは、各回で子供が15～20人ほどで、親は基本的に参加しない。

Q：小平市では、盛り上がっていた時期をすぎ、勢いが衰退している。スタッフが交代したいが、交代要員がいなくて悩んでいる。やばっこはどうか？

A：やばっこそのものも熱意のある人がやってきた。参加できなくなってきたら、無理にはお願いしない。平均年齢は70歳くらいなので、無理に繋げないが、新たにスタッフになるようにお願いしている。

Q：佐野市　子どもの放課後は児童館などの「子どもクラブ」へ行っている。そのような子どもとの住み分けは？スタッフと活動する時間は昼間だと思うが？

A：やばっことして、居場所が変わって野球などに参加する場合、無理に参加を求めない。居場所がないという子どもを対象にしている。活動内容にもよるが、作業によっては大人のみが事前に行うようにしているが、当日にできるものは大人と子どもが協力して行うこととしている。

Q：佐野市　イベントのないときは、子どもはやってこないのか？

A：やばっこ以外で平日に利用するということは原則的にはない。

□助言者からからのコメント（足利市と国立市の２つの発表の総括）

１　自治体と地域の歴史を踏まえた活動とその意味

矢場川小学校の歴史を見て、矢場川の住民が自主的に長く続けているのは、明治以降に小学校を作ったという歴史を背景としているのではないか。矢場川は、明治以降、一度合併されたが５年後の1897年に独立している。現在は足利市に合併されているが、歴史的な重みを持つ住民が多いのではないかと思った。

２　「やばっこ学びの巣」が楽しい場所

学ぶ権利を子どもだけではなく大人の居場所でもあり、楽しく文化活動でき学ぶ権利を実現しているということではないか。大人たちも楽しくなるということを、公民館が実現している。ネットワークより簡単に切れない「納豆ワーク」によって、大人も子どもも楽しい空間を作っていることは、何なのだろうと思った。

３　地方自治と学びの関係

住民の声と子どもの学びを実現。矢場川小学校や周辺の子どもは、人口減少が予想され、地域経済の今後のくらい予想の中で、何らかの不安があるはず。そのような話をする機会として、大人が話をしている、子どもの教育を通して活き活きしていることは、地方自治が進んでいるのでないか。

まず、話し合うことができている関係を作り出していることが大切。学校との協力で、教員の中にキーパーソンがいるのかどうかが気になりました。

２つの事例から「地域づくり」とは何か？ということですが、まずは、学ぶ権利を実現、地方自治、住民自治、主権者を決定するのは誰か？ということではないか。

様々な住民が地方自治の主権者としての代表者である住民が、「地域づくり」とは何かを考えていないと、情報をもとに学びを深め実現しないといけない。

このあと、若干の質問がありましたが、終了時間となり分科会が終了しました。

委員部会第１回研修会報告

都公連委員部会長・小金井市公民館運営審議委員　菅沼　七三雄

９月７日に、委員部会第１回研修会が小金井市萌え木ホールで開催されました。テーマは委員部会委員から希望の多かった「公民館の活性化～若者に魅力ある公民館にするには～」とし、講師は、長澤成次氏と井口啓太郎氏の推薦により、若手の千葉大学等の非常勤講師の越村康英氏にお願いしました。

当日は、猛暑にかかわらず、55 名（公運審委員 42 名、職員 10 名、市民３名）が参加し、前半は講師のお話、後半は８グループに分かれてグループ討議、発表、講師のまとめを行いました。

越村先生は、大田区での社会教育関連の職員経験、各市での活動に深く関わっており、事例として「ワカモノが作る若者のための講座」（大田区）、「ハッピーメーカー必ず実行委員会」（木更津市）の実践紹介をはじめ、わかりやすい語り口で、参加者から非常に好評でした。次回も、是非、先生にとの声も聞かれました。

また、グループ討議は、各市の事例、情報交換、忌憚のない意見交換と有意義であったとの声が多く聞かれ、もっと時間が欲しいとの意見が出されました。

アンケートからも「今回のお話を参考にいくつかの気付きがあった」「市民のためにだけでなく、市民とともに」等、今後の公民館活動に生かして行きたいとの決意も聞かれ、有意義な研修会でした。

職員部会第１回研修会報告

都公連職員部会長・日野市中央公民館　佐藤　岳彦

職員部会では、９月 18 日（水）に日野市中央公民館で研修会を開催しました。お忙しい時期にも関わらず、（委員も含めて）32 名の方に参加をいただきました。

今回の研修テーマは「職員の実践から考えるこれからの公民館の役割」でした。はじめに委員部会の副部会長である国分寺市の増本さんから「こいがくぼ国際教室」について、続いて福生市の松浦さんから「一杯 10 円『松林喫茶コーナー』を通した公民館職員の役割・関わり」について、それぞれ事例発表を行っていただきました。

講師の岩松真紀さん（明治大学非常勤講師）に講評いただいた後、６グループに分かれて、ワークとして円卓を用いたワールドカフェを行いました。途中で、メンバーのシャッフルも行い、「公民館職員として大切にしていること」などを取り混ぜた意見交換を行いました。その間に卓上の用紙にどんどん記入されたキーワードを、最後にグループリーダーが発表する形で進んだ２時間でした。

終了後のアンケートを見ると、講師のお話やグループワークが「勉強になった」「楽しかった」といった意見、紹介事例について「参考になった」「今後の仕事に生かせそう」といった意見なども目立ちました。

今回の研修では事例発表まで職員部会全員で分担して行った点や、都公連非加盟市から４名の参加があった点など、新たな成果もありました。

来年の研究大会にもつながる内容が示された研修会でした。

初めて取り組む公民館事業のかたち

ようこそ！社会教育の職場へ
公民館・社会教育施設職員になったみなさん
初めての社会教育職場で、少なからず不安やとまどいがあると思います。参加する・話を聞く・会話することで、問題は消えるかも。
ぜひ、おでかけください。

プログラム

① 公民館の事業を語り合う

講師：荒井　敏行氏（元国立公民館長）
日時：2019 年 11 月 14 日（水）14 時～16 時 30 分

② 公民館の事業を企画する

講師：荒井　敏行氏（元国立公民館長）
日時：2019 年 11 月 21 日（水）14 時～16 時 30 分

参加費：無料

会場：国分寺市立本多公民館・講座室（全２回）

(国分寺市本多１－７－１　☎042-321-0085
JR 中央線・国分寺駅北口から徒歩 10 分程度・裏面地図参照)

参加対象者：主に公民館・生涯学習センター等の社会教育・生涯学習関連施設及び社会教育・生涯学習主管課に着任後１～３年目程度の職員
連続参加できる人優先。各回参加も可です。

定　　員：各 35 人（定員を超えた場合は都公連加盟市町の希望者を優先させていただきます）

申込方法：別紙研修通知文書を参照いただき、裏面申込書を活用の上、ファックスまたは E-mail にて、11 月８日（金）までにお申し込みください。

申込・問合せ先：福生市公民館白梅分館（白梅会館）石野拓司
電話 042-553-3454　ファックス 042-530-2513
E-mail　f-hall@city.fussa.lg.jp

主　　催：東京都公民館連絡協議会